

在韓日本人女性の語りに見られる日韓の政治・歴史的問題への係わり

ーなぜ彼女たちは知識を得ようとししないのかー

竹村博恵(大阪大学大学院生)

1. 研究の背景

本研究では、在韓日本人の中でも韓国人男性との恋愛結婚を機に韓国に移住し現地で日韓にルーツをもつ子供を養育する日本人女性にインタビュー調査を実施し、インタビューの中に現れたナラティブとそれを取り巻く会話の両方を分析対象に定め、日韓の狭間で生きる彼女たちがどのような社会状況や関係性の中に身を置きながら暮らしているのかについて考察していく。彼女たちを対象とした先行研究では日韓の間に存在する政治・歴史的問題（以下、「日韓問題」と略）に関する知識を得ようとする者と得ようとししない者の存在が指摘され、前者は韓国社会を理解し適応していこうと努力している者や韓国で歴史教育を受ける我が子を守るために自ら学ぼうとする者として位置付けられている（及川 2021）。しかしながらそれらの位置付けからは知識を得ようとししない者の存在が排除されており、彼女たちがなぜ知識を得ようとししないのかについての深い考察が行われていない。在韓日本人女性の養育上の葛藤について調査した박애스더 (2017) と박세희 (2017) は一見消極的なように見える彼女たちの選択の背後には、自身がマイノリティとしての声を上げることが我が子の韓国生活における幸せや自身と家族との関係を脅かすことになるという不安が存在していると指摘し、そのような選択も彼女たちにとっては韓国社会で生きていくための戦略の一つであると報告している。

2. 研究の目的と課題

本稿では彼女たちが知識を得ないという選択をどのような社会状況の中で行っているのかを明らかにすることを目的とし、彼女たちへのインタビューの中に現れた日韓問題に関する知識を得ようとししない理由に関するナラティブを分析対象として取り上げる。そして 1) 彼女たちがナラティブ領域と相互行為の場の両方において自らをどのように位置付けているのか、2) 語ることを通じて表出・構築される彼女たちのアイデンティティとはどのようなものかという 2 つのリサーチ・クエスションについて明らかにし、その結果をもとに 3) どのような理由から彼女たちが知識を得ないという選択を行っているのか、またその際に彼女たちが身を置く社会状況がどのようなものかという 3 つ目のリサーチ・クエスションへの回答を試みる。

3. 研究方法

3.1 調査方法

本研究で使用するデータは、筆者が 2019 年 2 月、8 月、9 月、2020 年 2 月に韓国で実施したインタビュー調査の一部である。インタビューは協力者 2 名と調査者 1 名による 3 名の多人数会話の形態で実施され、参加者は調査者を含む全員が韓国人男性と恋愛結婚し韓国で日韓にルーツをもつ子供 1-3 名を養育中の在韓日本人女性である。調査者と協力者 4 名は初対面であったが、データ 1・2 のインタビュー同士は普段からやり取りのある親しい間柄であった。調査に際しては 1 台のボイスレコーダーと 2 台のビデオカメラによって録音・録画を行った。以下、表 1 に参加者の基礎情報を記載する。

表 1 インタビュー参加者の基礎情報（参加者の氏名は全て仮名）

データ番号	参加者	仕事	在韓歴	実施場所	時間
データ 1 (2019/9/10)	ナオ	専業主婦	2 年	協力者の友人宅	94 分
	ユキ	日本語教師	8 年		
データ 2 (2019/9/9)	エリ	日本語教師	7 年	調査者自宅 (韓国)	111 分
	チヒロ	専業主婦	9 年		
データ 1, 2,	調査者	大学院生	7 年		

3.2 分析の枠組みと方法

本研究ではアクティヴ・インタビュー (Holstein & Gubrium 1995) を採用しインタビューの中に現れた語りの内容だけでなく、それが語られるプロセスも分析対象に含めた。そして、インタビューの中に現れたナラティブをスモール・ストーリー (Bamberg & Georgakopoulou 2008) の枠組みに従って抽出し、ナラティブ領域と相互行為の場における彼女たちの位置付けとアイデンティティを明らかにするために Bamberg (1997, 2004) の提唱したポジショニング分析を実施した。分析に際しては、語りの中で示される語り手の自己 (レベル1)、相互行為の場の中で示される語り手の自己 (レベル2)、レベル1・2の結果から示される文化的・社会的自己 (アイデンティティ) (レベル3) の3つのレベルから分析・考察を行った。

4. データと分析

4.1 データ1:「どれが正しいの?」

データ1の開始前、ユキとナオは韓国人の夫と日韓問題に関して話をしない理由を調査者に話していた。そこで2人は日韓問題に関して知識のない自分達が不必要な発言をすると夫が腹を立てる可能性があることに触れ、そのような状況を招くのは嫌なので話をしないと述べた。それに対し調査者が知識を身につけようとは思わないのかと質問すると、2人は思わないと返答した。データ1では、ユキがその理由などについて4つスモール・ストーリー (S1-S4) を交えつつ説明する。

<データ1:「どれが正しいの?」>

10. ユキ :(.).知識を例えば得るにしても

11. 調査者:((頷く))

12. ユキ :((右の手のひらを広げる))インターネットの

13. :情報って一番簡単じゃないですか?

14. 調査者:((何度も頷きながら))うんうん

15. ユキ :((指でなぞる仕草を反復))じゃあどれが正し

16. :いの?って[なりません? <S1>

17. ナオ : [((何度も頷きつつ))うんうん

18. :[((ユキを見て頷きつつ))なりますね

19. 調査者:(((頷きつつ))うんうん::ん

20. ユキ :[あまりな膨大な量から::じゃあ本当にこれ

21. :が(.).正しい知識(.).ていうのは(.).どれですか?

22. :[(.)って <S2>

23. ナオ :[(((何度も頷く))

24. 調査者:(((首を傾げ真顔のまま頷き))うん::

<中略>

37. ユキ :で((手に持っている携帯を何度も指差し))読んだ

38. :ところで自分::は:本当のだから情報?(.)を((情報

39. :の部分で再度何度も線を引くような仕草))

40. ナオ :((頷く))

41. 調査者:((頷く))うん

42. ユキ :って難しくって <S3>

43. 調査者:(((頷く))

44. ナオ :(((頷く))

45. ユキ :だから(1)まためんどくさい <S3>

46. 調査者:(((頷く))うん::

47. ナオ :[(((頷く))

48. ユキ :そこから先には::

49. 調査者:((頷く))

50. ユキ :結構な労力やと[思うんですよ@@@

51. :[うんねえ

52. 調査者: [((頷く))うん::

53. ナオ : [((頷く))

54. ユキ :うん:: (1)そんな感じですね::

55. 調査者:[そうですねえ

56. ナオ :[(((何度も頷く))

57. ユキ :だからもうちょっと簡単に誰か説明してくれ

58. :たら::

59. 調査者:((何度も頷く))

60. ナオ :((じっとユキを見る))

61. ユキ :もしかしたら私も(.)(ナオを見て)ね?

62. ナオ :((頷いて))うん

63. ユキ :戦えるかもと[うー思うけど

64. 調査者: [((微笑みつつ))うん <S4>

まず、S1-S4におけるユキの位置付け (ポジショニング・レベル1) について述べる。S1, 2でユキはネットで日韓問題に関する情報を調べた際に「正しい知識」(21) がどれなのか分からない私 (レベル1) という位置付けを示す。続くS3では「本当の」、「情報」(38) を見つけるのが難しくその作業が面倒な私 (レベル1)、S4では日韓問題について「簡単に誰か説明してくれたら」(57, 58) 戦えるかもしれない私 (レベル1) という位置付けをそれぞれ提示している。次に、相互行為の場におけるユキの位置付け (ポジショニング・レベル2) について述べる。データ1の中でユキはまずS1-S3を挿入しつつ自分が知識を得ようとする理由について説明する。ユキは12-16行目でネットを介して情報を入手した際に「どれが正しいのってなりません?」(15, 16) と問いかける。それに対しナオと調査者が頷きつつ同意を示し (17-19)、それを見たユキはS2でネット上には日韓問題に関連した情報が膨大に存在するという状況に言及する。そして、その中から正しい知識を選び出すことの困難さを再度訴え、その主張に対しナオと調査者は前回と同様に頷きつつ同意を示す (23, 24)。その後S3でユキは再度「本当の」、「情報」(38) を選び出すことの困難さを強調し他の参加者が頷く様子を見せると (43, 44)、今度はその

作業が自身にとって「めんどくさい」(45)ものであるという認識を示す。また48,50行目では「そこから先は」、「結構な労力やと思う」と述べ上述した認識を反復して強調し、ナオと調査者はそれに対し同意を示していた(46,47,52,53)。以上の点からここまでのやり取りにおいて、ネット上の日韓問題に関する情報が膨大すぎて正しい知識がどれか識別できない私(たち)(レベル2)、正しい知識を識別することは手間のかかる面倒な作業だと感じる私(たち)(レベル2)という位置付けが3人の間で共有されていることがわかった。その後S4では、ユキが日韓問題に関して誰かが説明してくれれば「もしかしたら私も」、「ね?」(61)とナオに問いかけ、ナオの同意を得ると直後に「戦えるかと思うけど」(63)と発言する。ここでユキは戦う相手が誰なのか具体的に言及していないが、データ1の開始前に韓国人の夫と日韓問題に関する話題について話をするかというやりとりが行われていたことから、戦う相手が夫もしくは韓国人を指している可能性を推測することができる。また「思う」(63)の部分に笑いを伴って発言されていることから、ユキが例え知識を得たとしても政治的な話題に関して韓国人と争うという状況に非現実性を感じている事が窺える。そして調査者もユキの発言を笑みを浮かべて頷きつつ聞いており、2人が情報収集ができたとしても韓国人と戦うことに実現性を感じられない私(たち)(レベル2)という位置付けを共有している様子が見受けられた。最後に、レベル1とレベル2両方の位置付けを提示する中でユキが実践している文化的・社会的自己(ポジショニング・レベル3)について述べる。ユキはデータ1の中で日韓問題に関する情報がネット上に膨大に存在すること、そしてその中から正しい知識を選別するには労力を要すること、情報を得られたとしても韓国人と戦うことに現実味を感じないことなどを説明していた。これらのやりとりから、データ1の中でユキが日韓問題に関する知識を身につけようとは思わない私(レベル3)という文化的・社会的自己(レベル3)を構築していることが明らかになった。また、分析する中で協力者2人が日韓問題に関する正しい知識というものが存在していると認識していること、知識を得たとしても韓国人と日韓問題に関して争うことは現実的ではないと感じていることがわかった。

4.2 データ2:「この国で住みづらいなって」

データ2の開始前、参与者3人は子供から日韓問題に関連する質問を受けたらどう返答するか話していた。協力者2人は自身も深く知らないため説明することができないと発言し、それを受け調査者が知識を身につけようとは思わないのかと尋ねるとエリは思わないと答えた。そして知識を得るためには携帯電話を使用するが、ネット上には偏った内容の情報も多く存在していると述べた。データ2はその直後から始まり、情報を得た場合何が起るかがエリによって説明される。なお、83行目でエリが言及している「独島」とは、日本では竹島、韓国では独島と呼称される同一の島の名前を指している。

<データ2:「この国で住みづらいなって」>

77. エリ :((左手に携帯を持つ仕草))もし自分が見たペー
 78. :ジが(..)100%正しいかどうか分からない(..)から
 79. 調査者:[1う……ん
 80. エリ :[1もしなんかこう偏っただからすごい日本よりの
 81. 調査者:[2((頷く))うんうん
 82. エリ :[2((左手に携帯を持つ仕草))とこ見ちゃって
 83. :あ(..)独島は全然韓国のじゃないやんみたいや
 84. :(..)思ってしまったら
 85. 調査者:うん
 86. エリ :なんかすごい(..)喧嘩になりそうっていかもう且
 87. :那に対しても韓国に対してもなんでこんなや
 88. :ってんのってってすごい自分::が(..)なんか
 89. 調査者:ああ::なるほど
 90. エリ : [もし(..)(首を傾げて)]まっほんとのこと
 91. :がまあ(..)事実じゃないかもしれなくてもなんかそ
 92. :うい(..)なんか事実を知ってしまったら
 93. 調査者:(頷く)
 94. エリ :今は知らんからってう(..)まあ言い訳で::(2)何

95. :にもフラットな感じっていうか
 96. チヒロ :(頷く)
 97. エリ :まあ なんか2人とも喧嘩してるわっみたいや
 98. 調査者:(頷く)
 99. エリ :韓国と日本喧嘩してるわづらいの(..)感情で止め
 100. :れてんのが
 101. 調査者:(頷く)
 102. エリ :例えばこう(..)深く知っちゃって:
 103. 調査者:(頷く)
 104. エリ :ええ何ゆってんの韓国とかってなっちゃったら
 105. 調査者:(頷く)
 106. エリ :この国で住みづらいなって
 107. 調査者:[((頷く))う……ん] [(頷く)]
 108. エリ :[ゆうの(..)なんか深層心理で思っ:::なんか調
 109. :べてないのかなあってゆうのはちよつとあるんで
 110. :すけど:
 111. 調査者:[ああ::なるほど:
 112. チヒロ :[(頷く)]

まずスモール・ストーリーを語る中で示されるエリの位置付け(レベル1)について述べる。語りを通してエリは「偏った」、「すごい日本よりの」(80)情報を見て韓国人の夫と喧嘩になる状況(80-92,102-104)と、深く知らないが故に「フラットな感じ」(94,95)を維持できている現在の状況(97,99,100)を描き出す。前者では情報の影響で夫や韓国に対し「なんでこんなやってんの」(87,88)、「何ゆってんの韓国」(104)といった感情を抱くエリの様子が描かれ、情報を得ることで韓国と「喧嘩」(86)になる可能性のある日本人の私(レベル1)という位置付けが示される。対する後者では日韓問題ゆえの日韓対立を「2人とも喧嘩してるわ」(97)、「韓国と日本喧嘩してるわ」(99)と第三者の立場から見つめるエリの姿が描かれ、深く知らないが故に客観的にその状況を受け止められる私(レベル1)という位置付けが提示される。また102-110

行目では深く知った場合に何が起こるかに言及し、自身が韓国と喧嘩するような状況になれば「この国で住みづらい」(106)と「深層心理で思っ」(108) いる点に触れるとともに、それが知識を得ようとする要因のように感じると述べ韓国で住みづらくなる可能性を考慮し知識を得ようとする私 (レベル1) という位置付けを示す。次に、相互行為の場におけるエリの位置付け (ポジショニング・レベル2) について述べる。エリは77-78行目で携帯から得た情報が「100%正しいかどうか分からない」と述べ、それに対し調査者は曖昧な返答を返す(79)。続けてエリは日本寄りの情報を得た場合に何が起こるかを説明し(80,82-84,86-88), 調査者が89行目で「なるほど」とその考えに理解と同意を示す。ここでは日本寄りの情報は自身と韓国との間に諍いを生じさせる要因となると考える私(たち)(レベル2) という位置付けを2人が共有している様子が観察された。その後エリは「言い訳」(94)と前置きした後に、現在は知識がないゆえに「フラットな感じ」(95)のまま韓国で生活できていると話す。その意見に対しチヒロが頷く様子を見せ(96), 協力者2人の中で知識がないからフラットな状態のまま韓国で生活できている私(たち)(レベル2) という位置付けが共有される。続いてエリは「フラットな感じ」(95)の内状について97-100行目でより詳細に言及し、知識がないゆえに得られる利点と知識を得ることによって生じる危険性を調査者に説明する。それに対し調査者は107行目で頷く様子を見せ、それ故に知識を得ようと思わないというエリの見解(108-110)に対しては「なるほど」(111)と理解と同意を提示し、チヒロも頷きを示す(112)。ここでは韓国に住みづらくなるという不安から知識を身に付けることに躊躇する私(たち)(レベル2) という位置付けが参与者3人の中で共有される様子が見られた。最後に、レベル1とレベル2両方の位置付けを提示する中でエリが実践している文化的・社会的自己(ポジショニング・レベル3)について述べる。エリはデータ2の中で知識を身につけようと思わない理由について説明していた。それらのやりとりから、データ2の中でエリが日韓問題に関する知識を得ることに意味を見出せない私(レベル3) という文化的・社会的自己を構築していることが明らかになった。また分析を行う中で、情報の中には「100%正しい」(78), 「ほんとのこと」(90), 「事実」(91,92)が存在しているとエリが認識していることがわかった。また同時に、知識がないからこそ「フラットな感じ」(95)を維持できるのだという自身の意見を「言い訳」(94)と評価づける様子からは、知識を得ようとする立場と比較して知識を得ようとする自身の立場をネガティブなものとしてエリが捉えていることが窺え、日韓問題に関する知識を身につけるべきだという規範意識のようなものがエリの中に存在している可能性が示唆された。

5. まとめ

本稿での分析結果からは、日韓問題に関して入手できれば「戦えるかも」しれない「正しい知識」というものがあると彼女たちが考えていること、一方で知識を得られたとしても韓国でマジョリティであり幼い頃から日韓問題に関して学んでいる韓国人と、結婚移民であり日韓問題について学んだ経験も乏しい自身が争うことは現実的ではなく、韓国での安定した生活を守るためには争いを避け「フラットな感じ」を維持することがより重要であると彼女たちが認識していることが示された。以上の点から言えることは、現在も過去の戦争と関連する対立が日韓両国の間で継続している中で、彼女たちが知識をつけないという選択を通じて両国間の対立の枠組みに抗い自らの生活環境を守ろうとしているということであり、その選択が消極的な姿勢の表れではなく自身が身を置く社会状況との関係性の中で構築された戦略の一つであるということである。しかしながらその発言からは韓国で暮らす日本人として知識を得るべきだという規範意識のようなものが彼女たちの中に存在している可能性が窺え、それ故に自身の選択に自信が持てずに引け目を感じている様子が見受けられた。本稿で得られた結果は、彼女たちの選択の背後に存在する社会状況との関わりについての理解を促すと共に彼女たちへの不必要な誤解を防ぐ契機となり、どのような心理・社会的支援の開発が彼女たちにとって必要かを思案するための一助となったと考える。

トランスクリプト記号

(.) / (.)	0.2 / 0.5 秒以下の短いポーズ	(数字)	(数字) 秒の短いポーズ	(())	状況説明
_____	強調的に発音される箇所	?	疑問形の上昇イントネーション	@	笑い(個数は長さ)
:	音の引き伸ばし(個数は長さ)	¥—¥	笑いながらの発話(¥ ¥の間)		
[発話の重複の開始箇所	-	言い間違いなどによる言葉の詰まり		

(抜粋)

- Bamberg, Michael. (1997). Positioning Between Structure and Performance. *Journal of Narrative and Life History*, 7(1/4), 335-342.
- Bamberg, Michael. (2004). Form and Functions of ‘Slut Bashing’ in Male Identity Constructions in 15-Year-Olds. *Human Development*, 47(6), 331-353.
- Bamberg, Michael., & Georgakopoulou, Alexandra. (2008). Small Stories as a New Perspective in Narrative and Identity Analysis. *Text & Talk*, 28(3), 377-396.
- Holstein., James, & Gubrium, Jaber (1995). *The Active Interview*. SAGE Publications, Inc. (山田富秋・兼子一・倉石一郎・矢原隆行訳 (2004). アクティブ・インタビュー -相互行為としての社会調査- せりか書房)
- 及川ひろ絵 (2021). 在韓日本人妻の韓日関係を取り巻く不安に関する事例研究 -2019年の状況を中心に- *일본연구*, 54, 131-168.